

上野ひでのりの「トレーダーズアカデミー」特別付録

ダウ理論基本学習法

2012-07-28 発行 Ver.1.0

◆ 準備作業

1. この学習方法は、過去の相場のうち、特に直近の1年分の日足データをもとに、各日の4本値を自らの手でノートなどに再記録することで、現在に至るまでの相場の動きを確認しながら、相場の大きな流れを把握するためのものである
2. 当初の観察対象はEURUSD(ユーロ-米ドル)に限定する
3. 大学ノートを1冊(B5判/30行以上)、3色ペン、ストップウォッチを準備する
4. 3色ペンは、特に高値(=青系)、安値(=赤系)、始値と終値(=黒系)のように色分けしてメモするため
5. ストップウォッチは、作業経過時間が計測可能なものなら何でもよい
6. FXDDのデモアカウント(FXDD Malta)使用のためにMT4(メタトレーダー)を導入して環境設定を完了させる
7. エクセル等の表計算ソフトに、検証すべき期間のデータ(詳細は、次ページを参照)を取り込んで、一括でプリントアウトしておく(3ヶ月分ずつなど、調整してもよい)
8. 以上の準備が整えば、この学習方法による作業と検証を行って時間については、手元にパソコンは必要でないため、外出先での空き時間などを活用しても学習を進めることが可能となる
9. なお、この学習方法は、毎日20分程度の時間を割いて、およそ1ヶ月間継続することを前提にしているが、開始から1ヶ月が経過し、検証が現在の相場に追いついた段階からは、毎朝のニューヨークタイムクローズ後の4本値確認と記録作業を日課とすることで、ダウ理論に基づいた相場の大きな流れを常に把握しながらの、日々の相場観察が可能になる(詳細は、次ページ以降を参照のこと)

◆ 過去からの日足 4 本値書き出し作業(以下、すべてメモすべき内容)

1. 書き出し作業の開始月は、前年同月の第一営業日を含む週の月曜日分からとする

例) 2012 年 7 月中に開始するならば、2011 年 7 月 1 日が金曜日なので、この週の月曜日である 2011 年 6 月 27 日分から開始

2. 前ページでの説明通り、プリントアウトした FXDD の MT4 日足データをもとに、1 日分ずつの「始値／高値／安値／終値」をノートにメモする
3. 各日の「前日終値－当日終値＝値動き(ラインチャート的な見方:以下同様)」「高値－安値＝値幅」を計算
4. 前日比(必要に応じて、前々日比等)でのダウの上げ下げの確認
5. 1 週間分の高値と安値をマーク(ノートを見開きで使い、右ページ側など、別枠にメモするのが望ましい)
6. 各週の「前週終値－当週終値＝値動き」「高値－安値＝値幅」を計算
7. 前週比(必要に応じて、前々週比等)でのダウの上げ下げの確認
8. 1 日に 2 週間分の作業で、約 15～20 分間が作業時間の目安
9. (2～3 日に 1 回)月替わりの時点で、1 ヶ月分の高値と安値をマーク(週単位のチェックと同様、右ページ側の別枠へのメモが望ましい)
10. 各月の「前月終値－当月始値＝値動き」「高値－安値＝値幅」を計算
11. 前月比(必要に応じて、前々月比等)でのダウの上げ下げの確認
12. 以上の作業を週 5 日間のペースで行えば、約 1 ヶ月間で過去 1 年間分の値動きについて検証したことになり、またこれらの作業が終了したのと同時に、現在の相場の値動きの検証にそのまま移行できる
13. ただし、作業の進行にあたっては、さらに以下の点に注意することによって、相場の値動き予測のための基礎力が着実に身につけられるようになる

◆ 書きだしたメモをもとに、書き出した期間のトレンド把握

1. 3日分以上のメモが溜まった段階で、過去3日間以上のデータから、翌日の方向性を予測してみた後に翌日データをメモして検証する
2. 3週間分以上のメモが溜まった段階からは、過去3週間以上＋過去3日間以上のデータを複合的に比較しながら、翌日の方向性を予測してみた後に翌日データをメモして検証する
3. 3ヶ月分以上のメモが溜まった段階からは、過去3ヶ月以上＋過去3週間以上＋過去3日間以上のデータを複合的に比較しながら、翌日の方向性を予測してみた後に翌日データをメモして検証する
4. 上記メモは常時手元にとどめ、空き時間や休憩時間などに、数字の比較や直近のレジスタンス・サポートレベルの把握などに活用する（書き出し作業が進行した範囲内）
5. 作業をすすめるペースとしては、3日間続けたあと4日目には1日休みをはさみ、休みの日は新規のデータのメモを行わないかわりに、記録したデータ類の比較検証や値動きの再確認にあてるとよい